

学年 第3学年

時間 1時間

題材 自画像

- 168 小林千古「自画像」1903～05年制作 油彩・画布
- 315 南薫造「自画像」1929年制作 油彩・板
- 295 靄光「帽子をかむる自画像」1943年 油彩・画布

題材について

第3学年の生徒は、最高学年としての自覚を持ち、リーダーとして中学校のさまざまな活動に取り組んでいる。また卒業後の進路に向けてチャレンジしている。

画家たちも自分の表現を求めて、チャレンジしてきた。その時々の中での自らの姿を自画像として残している。

教材として広島県出身の3人の画家（小林千古、靄光、南薫造）の自画像を設定した。

それぞれ人生の重要な時期に描かれていて、挫折や悲しみを経験しながらも力強く未来を見据えているようにも感じられる。進路を控えた生徒たちの共感を呼ぶところがあると考えた。

自画像と肖像画とを混ぜたカードを使いゲーム形式で、班での話し合いをしてグループ分けをする活動を取り入れた。いろいろな分け方から絵の読みとり方の多様性に気づき、その中から自画像の持っている独特の雰囲気に注目させる。

それぞれの画家の自画像から感じられる雰囲気を考え、時代背景や自画像を描いたときの状況などを知ることで、今の自分を振り返り未来に向けて力強く生きていく希望を持たせることができると考えた。

自画像は中学校の表現の授業でしばしば取り上げられる題材である。特に卒業を控えた3学年で取り扱うことが多いと思う。義務教育をおえる人生の節目にも当たるときに、今までの自分を振り返り自分の顔を描く。生徒たちは中学校での様々な思い出を凝縮し記念に残すとともに、未来への希望もこめて制作に取り組むだろう。そうした表現活動にもつなげていく鑑賞にもなると思う。

指導要領との関連 [第2学年及び第3学年] 2内容 (A表現 ア、ウ) B鑑賞 ア

目標

画家が自画像に込めた思いを考え、自分の人生と重ね合わせながら人間の生き方や創造力への共感を持って鑑賞できるようにする。

学習展開

学習活動（予想される生徒の反応）	学習内容	指導上の留意点
提示された絵を二つのグループに分ける。 ・右向き、左向き ・日本人、外国人 ・子供、大人 ・ヒゲがある、ない ・自画像、他人の肖像  (自画像を分けた理由) ・なんとなく雰囲気で ・強い意志を感じる ・知っていた 多くの画家が自画像を残しているが、	小林千古「自画像」 小林千古「男性像」 南薫造「自画像」 南薫造「赤いトルコ帽の少年」 靄光「帽子をかむる自画像」 靄光「畠山剛氏の像」 以上6作品の複製を提示する。 いろいろな分け方が出てよい。 それぞれそう分けた理由とともに発表させる。 自画像とそうでないものに分ける意見が出なかったら教師が分けたものを示し、どう分けているのか考えさせる。	絵の共通点、相違点を見つけようとしているか。 見つけたことを積極的に発表しようとしているか。  自分なりに考えて発表しよう

<p>なぜ自画像を描くのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・描きたかったから</li> <li>・後の人に自分のことを伝えたい</li> <li>・今の自分自身の姿をみつめて考えたい</li> </ul> <p>3人の画家の自画像から、描いたときの画家の気持ちや、どんな人だったか考えて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つらい、不安に立ち向かっていきたい</li> <li>・やる気がある、意志が強そう</li> <li>・落ち着いている、優しい人</li> </ul> <p>3人の画家について知り、画家が自画像を描いてきた意味について考え、理解していく。</p> <p>これから自画像を描くに当たって、どう描いていくか考える。</p>	<p>なぜ描きたかった？</p> <p>3人の画家は自画像を描いたときに何を考えていたか考えてみよう。また自画像から画家の人柄を考えてみよう。</p> <p>生徒の意見を受けながら、それぞれの画家について説明する。</p> <p>生徒に中学校生活をふり返って、今の自分を見つめたり、未来への希望を持たせたりして自画像に取り組みせていく。</p>	<p>としているか。</p> <p>作者の気持ちを考えているか。</p> <p>自画像を鑑賞し、画家が自画像を残したことに思いをはせることができたか。様々な自画像の表現方法があることが理解できたか。</p>
--	--	---

#### 準備物

- ・自画像ほかの作品複製画
- ・ワークシート

<p>県立美術館所蔵の関連作品</p> <p>「自画像」(O 82) 田中万吉 1919年 油彩・画布</p> <p>「自画像」(O 221) 山路商 1942年 油彩・板 ほかデッサン1点(D 229)</p> <p>「自画像」(O 279) 和高節二 1919年 油彩・板 ほかデッサン2点(D 269, 270)</p> <p>「自画像」(O-278) 檜山武夫 制作年不詳 油彩・画布 ほか自画像4点(O 288~291)</p> <p>「二重像」(D 98) 鬚光 1941年 墨・紙</p>
---

<p>参考文献・資料</p> <p>広島県立美術館コレクション選 広島県立美術館 1996年</p> <p>廿日市が生んだ日本洋画壇の巨匠 小林千古画集 廿日市市 1988年</p> <p>生誕100年記念 南薫造展図録 広島県立美術館 1983年</p> <p>鬚光と交友の画家たち展図録 広島県立美術館 2001年</p> <p>広島県立美術館ワークシート「帽子をかむる自画像」</p>
---

鑑賞ワークシート

A～Fの6枚の絵を二つのグループに分けて、それぞれのグループの共通点を書きましょう。

絵の記号	共通点

絵の記号	共通点

画家はなぜ（ 自画像 ）を描くのだろうか。

<p>絵の練習のため、モデルがいなかったため          自分をふり返って見つめるため          自分が生きていた証を残したい          自分が好き（もしくは嫌い）だから など</p>
---

3人の絵から受ける印象をまとめてみよう。

<p>小林千古          意志が強そう          几帳面、繊細な人          細かく描いてある、写真のよう          誇りを持っている          孤独感が伝わってくる</p>	<p>南薫造          こわそう、やさしそう          堂々としている          物思いにふけている          色遣いが暖かい感じ          自分のありのままを描いている</p>	<p>靨光          背が高そう、がっちりしている          遠くを見ていて寂しそう          不安や怒りを感じる          形を変えている          何かを訴えているよう</p>
---	---	--

広島の3人の画家が（ 自画像 ）を描いたとき。

小林千古（1903～05）年

18才でアメリカへ渡り絵の勉強をする。10年後半年間の帰国の後、ハワイ、アメリカ、フランス、イタリア、ハワイを巡って帰国した年。

南薫造（1929）年

東京美術学校卒業後、イギリスに留学。その後ヨーロッパやインド、国内を巡り、展覧会に次々と作品を発表していたころ。

靨光（1943）年

10代の半ばで画家を目指して上京。実験的な作品を次々と発表、この年仲間とともに「新人画会」を結成した年。

平成	年	月	日（ ）曜日
第3学年		組	番 氏名